

Accordion♪Accordion おたのしみ MusicBOX 3

2023年3月4日(土) 昼の部 開演 14:00 / 夜の部 開演 18:00 サンエール相模原・大ホール
主催：一般社団法人 ビックママ・プロジェクト／相模原市 文化芸術発表・交流活動支援事業

主催より案内をいただいたので楽しみに足を運んでみました。会場までは、JR 横浜線・京王線の「橋本駅」から徒歩 10 分ぐらいでした。

会場の隣はわりと広い公園で、園内にはたくさんの桜の木が植えてありすべて同一種（河津桜と思われる）。そのため写真のように同時に開花していて、季節がそこだけぽこっと春になったようで多くの家族連れなどが訪れていました。

ちょっと不思議な、「12 の月の物語」という児童文学の一場面のように見とれてしまいました。



表題のように、昼の部「Luann コンサート」と夜の部「Accordion Night」の 2 ステージあったのですが筆者が聴いたのは昼の部でしたので、昼の部の紹介になります。

まず、主催の一般社団法人ビックママ・プロジェクトについて、プログラムから転記します。

「ビックママ・プロジェクト」は、音風景をキーワードに文化活動を行うグループ。読み聞かせママたちの小さな輪がきっかけで、2005 年より本格的に始動。一音一会の出会いの中で、活動の幅を広げてきた。企画・制作から実演まで、全て行うのも特色の一つ。

相模原市との協働事業では学校教育課との連携「絵本コンサート」事業（2010 年～市内の小学校を 3 年間巡回）、青少年相談センターとの連携「音風景事業」（2014 年～不登校の児童・生徒が通う相談指導教室にて 3 年間実施。現在も継続中。）2018 年 11 月法人化。杜のホールはしもと（大ホール）にて、ゆめの芽助成金交付事業「Accordion♪Accordion お楽しみ Music BOX」を実施。現在、相模原市教育委員会より推薦を受け、さがそう未来プロジェクトの登録団体として、名を連ねる。と紹介されています。

出演者紹介「Luann（るあん）」

ビックママ・プロジェクトから生まれた音楽隊。2013 年 JAA 国際アコーディオンコンクールパフォーマンスアンサンブル部門にて桑山哲也賞受賞。翌年、横浜赤レンガ倉庫にて「Bellows Lovers Night」に出演。2019 年 9 月、フランスへ。パリの街中を演奏隊が練り歩いた。昨年大晦日に再び赤レンガ倉庫「Bellows Lovers Night」に出演。（プログラムより一部転記）

パリでの様子（寄稿していただいた原稿）と昨年大晦日の「Bellows Lovers Night」の様子は、関東アコのニュースで紹介したので読まれ

た方もおられると思います。

メンバーは、千葉薫（Acc.） セッキー（Acc.）
平田陽子（Vl.） 管 幸美（Fl, Mand, Vo.）

会場内はマスク着用でした。「写真撮影は他のお客さんの迷惑にならないように行ってください」と開演前の挨拶でしたので、何枚か撮らせていただきました。（録音・録画は NG でした）

さて、昼の部のプログラムは、7 つの小箱に分かれています。定刻になるとボタンアコを奏でながら千葉薫さんが登場。



《1つめの小箱》では、大型の楽器、中型の楽器、小型の楽器（写真）、またボタン式と鍵盤式と楽器を持ち替えながら演奏することで楽器による音の違い、スイッチによる音色の違いを紹介していました。写真の小型の楽器はヨーデルで使われる楽器のように肩バンドが右側に 1 つでした。（カルレット：ギネスに載った世界最大のアコーディオンを作ったジャンカルロ氏の手作りのかわいらしい楽器）

仲間の“セッキー”を会場のみんなで一緒に呼び、《2つめの小箱》を開きます。すっかりおなじみとなった“ボンジュール”の挨拶で会場はたちまちパリの街へと替わります。

「あちらにエッフェル塔が見えますか？こちらに凱旋門が見えますか？そう、ここはシャンゼリゼ通り、これから私たちと一緒にパリの街を歩きましょう！」セッキーのこんなおしゃべりの間に、ヴァイオリン、フルートも登場し「おおシャンゼリゼ」⇒「パリカナイユ」（歌と一緒に）⇒～7 泊 8 日のパリでの旅の話しか

ら～「スタイル・ミュゼット」(フルートはマンドリンに持ち替え)へと進みます。

ここで、アンサンブルで使う楽器の音色を1つずつ紹介。そして「アメリのワルツ」、「La Noyee」(この曲は2013年のJAA国際アコーディオンコンクールパフォーマンスアンサンブル部門で桑山哲也賞受賞曲と紹介)

《3つめの小箱》は、ガラッと変わって～郷愁・世界を巡る旅～ 出発進行！

SLは行く(汽車ポップ:汽車汽車シュッポシュッポ・・・/案山子/汽車:いまはやまなか・・・)他に「English Folk Melodies」、「ルーマニアの民俗舞曲」を演奏。

《4つめの小箱》は、るあんのサポートメンバー(Mr. Hayashi/Bass) (Seimei/Drs.) が加わった演奏。ベースの方は公民館で知り合い、パーカッションの方は、公園で弾いていたときに“アコーディオンって素敵ですね”と話しかけてこられて知り合ったと紹介されていました。「ルーマニアの民俗舞曲」、パーカッションが入るとちょっとウキウキ楽しくなります。

続いての曲は、私たちは参加型のコンサートをめざしているとのことで、「チキンダンス」(手拍子4回、お尻振り4回などの振り付けが入る)を楽しみます。この小箱の最後は「情熱大陸」(どんな曲を演奏して欲しいですかというアンケートにだいたい書かれているそうです)



情熱大陸演奏の様子

・・・・・・休憩・・・・・・

《5つめの小箱》はゲスト「Die Makrele」の演奏。メンバーは、阿部一真 (Acc.) 我妻 靖



(Sax) 演奏曲はA. ピアソラの「リベルタンゴ／鯨」の2曲。ちなみに、夜の部では30分ほど時間をいただきリベルタンゴの他にA. ピアソラの名曲「タンゴの歴史」を演奏するので夜の部にもいらしてください。と呼びかけていました。

《6つめの小箱》は、皆さんによく知られた、♪ サウンドオブミュージックメドレー～ひとりぼっちの山羊飼い～私のお気に入り～エーデルワイス～ドレミのうた。フルートの方は、マンドリン、歌にと多芸なので曲の情景が広がり演奏も楽しく華やかになります。



《7つめの小箱》は、昼の部最後の箱で、るあんとサポートメンバー全員による演奏です。サポートメンバーと合わせる時間を作るのは大変で2回ほどしか練習が持てなかったとおっしゃっていました。

最初の演奏曲「Game Of Thrones」は初めて聴く曲でしたが、らくだにゆられた商隊が大草原を進んでいくような時間の広がりを感じる曲です。2曲目の「場末のJAVA」は、アコーディオニスト檜山学氏の作曲です。るあんの千葉薫さん、ゲストメンバーのアコーディオン奏者、阿部一真さんはともに檜山先生の門下生です。

他に「OTTO E MEZZO」、「ゆかいに歩けば～ピア樽ポルカ」、フィナーレは「小さな世界」。

アンコールは、早いテンポで軽快な「ジョン・ライアンズ・ポルカ」、会場も一緒に手拍手で参加し、大きな拍手で幕を下ろしました。



夜の部にはさらにゆかいな仲間たちが加わるプログラムでしたので、こちらも楽しい舞台になったことでしょう (記: 乙津)

スプリングコンサート

2022 年度 音楽センターアコーディオン科 南部教室修了演奏会
2023 年 3 月 26 日（日）14 時開演 かわさきゆめホール

筆者の所属する南部教室では、毎年、音楽センターの 1 年間のカリキュラム修了に合わせて生徒の発表の場をつくってきました。例年利用している会場が取れなくて、初めてホームコンサートのような開催となりました。結果として雨天にもかかわらず満員の中での発表となり、ご来場くださった皆さん、受付、司会、椅子出しなどスタッフの皆さんに心より感謝致します。以下は今年の様子です。

舞台スペースをのぞくと 50 名ほどの客席です。演奏場所も舞台の上ではなく客席と同じフラットなフロアでしたので、ホームコンサートのような温かみを感じました。

プログラムは、途中休憩を挟み 2 部に分かれて生徒 10 名と講師がそれぞれ独奏を行いました。合奏はオープニング、エンディング、アンコールの 3 曲、その他に重奏 1 曲、アンサンブル 1 曲、ゲストのソプラノ独唱の構成です。

うれしいことにたくさんの方からいろいろな感想をいただきました。曲と合わせて紹介する形で載せてみます。演奏の様子をイメージしていただけると幸いです。

プログラム順に演奏曲を紹介します。



オープニングは全員合奏で「金婚式」指揮：森陽介。この曲は、昨年関東アコーディオン演奏交流会でも弾いているので、聴くごとに良くなっているとの感想をいただきました。

次に二重奏があり、「月のワルツ」この演奏には、二重奏ならではの奥深いあたたかい演奏でしたとの感想をいただきました。



独奏の最初はプログラム 2 番、「アフリカの呼び声」、荒野で動物の叫び声を聞いているような力強い演奏です。

3 番は「チェブラーシカより誕生日の歌～青い列車」、演奏者はチェブラーシカのアニメは大好きで、譜面を見つけたので講師に編曲をお願いし頑張って練習したと話されたけれど、客席のかたから「私も大好きな曲です」と感想をいただきました。映画の中でワニがアコーディオンを弾いていますね。

4 番は「G 線上のアリア」、演奏者は今年二十歳となった若い方です。いただいたアンケートにたくさんの方から良かった曲として書かれていました。

5 番は筆者で、「小さな物語、Milonguita」、2 曲ともリシャール・ガリアーノ教則本の中の練習曲です。最初の「小さな物語」は日常のちょっとした会話のように感じられた曲で、Milonguita（ミロンギータ）はタンゴのリズムそのままの題名です。

6 番は「ソナチネ」、この演奏には、ベローストップが上手でとても勉強になりました。との感想をいただきました。

7 番は第 1 部最後の曲で、「麗しのヴェルムランド」、スウェーデン民謡です。「銀世界が浮かんできました」と書かれた感想がありました。

・・・・・・休憩・・・・・・

第 2 部は、8 番の独奏から始まります。「ワルツ・エクレール」（松永勇次編曲）この曲は演奏者も気に入っていて頑張って弾き込んでいます。「お菓子放浪記」を観た方でしょう、久しぶりにあの映画を思い出しました。と感想が載っていました。別の方の「かわいい素敵な曲ですね」との記載もあります。

9 番は「第三の男より ハリー・ライムのテーマ」、演奏者は緊張で指が震えたと話していたけれど、アンケートには「楽しかった、曲の雰囲気が素敵！」と記入があります。

10 番は「ラ・スパニユラ」(川口裕志 編曲)、この演奏には、川口先生の編曲は難しいのに流れるような演奏でさすがベテラン!との感想をいただきました。

11 番は「TOMORROW」、この演奏では、お客さんも気持ちよかったのかハミングや、つぶやく声で演奏に合わせ歌っている方がたくさんおられました。

12 番は、フルートとのアンサンブルで「花～すべての人の心に花を～」、

この演奏には、歌を知っているとつい歌いたくなる、人生の応援歌ですね。また別のかたからは、ここ数年、(同じペアでの演奏が続いているからか)、二人の演奏を毎回楽しみにしています。



との書き込みをいただきました。

13 番は、ゲスト山田千賀子さんのソプラノ独唱で「月のワルツ／鶴」、懐かしいメロディーラインに、伴奏も二重奏ならではの奥深いあたたかい演奏でした。と感想が寄せられました。



14 番は、講師の演奏で「アンニ・ローリーによる即興曲」(青山義久 編曲) きれいなメロディーの曲で、素敵な編曲です。

いただいたアンケートにも、“良かった”の記述がたくさんありました。また、中学校のチャイムで使われていた曲だった。との記入もありました。

次はエンディングで「ロンドンデリーのうた」(荒木奈緒子 編曲)、を全員合奏。この演奏も良かったという書き込みが多く、ハーモニーが素晴らしい、とか、合奏はやはりチームワーク、音の重なり、合奏に合いますね。などの感想でした。「ロンドンデリーのうた」の様子↑

(右上の写真)



最後は嬉しい“アンコール”の声をいただき、アンコール用にと練習してきた「アンパンマンのマーチ」を元気に演奏して終了しました。



この日は講師の誕生日でもあったので、終了後、花束と“ハッピーバースデー”でお祝いしました。

.....

□曲への感想の他に

- ・コロナで3年ぶりに聴きにきました。
- ・年を重ね仕事が一段落したら何かに打ち込めるような人になりたい、アコーディオンの音色はこんなにかわいいんだと気付かされました。
- ・アコーディオンの演奏はとっても難しいのがわかりました。でも音色はとっても素敵なのでまた聴きに來れるように続けてください。
- ・肩の力が抜けている司会の方、楽しいお話を交えてくださりお上手で楽しかったです。
- ・アコーディオンの多彩な音色、重層的な演奏、素敵な楽器ですね。楽しい時間でした。
- ・(会場については)「大きな会場で聴きたかった」、「広すぎずに良かった」と二通りありました。
- ・フラットな会場は雰囲気アットホームで良いですね。
- ・(写真撮影は禁止だった) 数年ぶりだったので、離れて暮らす親族の演奏の姿を写真に収めて帰りたいかった。

等々の感想をいただきました。

また来年に向けて頑張ろうという気持ちにさせてくださるお客さんに感謝です。

(文責：乙津)

音楽センターアコーディオン科 2022 年度 中部金曜教室コンサート

2023 年 4 月 9 日（日）14 時開演 なかの芸能小劇場

当日は季候も良く、たくさんの人で賑わいを見せていた中野駅前の商店街「サンモール」を横目に会場に着くと、100 名ほど入るホールも開演時には満席状態でした。（写真：主催提供）

講師を含めて 8 名が予め並べられた舞台の椅子につくと定刻になり、オープニング「日曜はダメよ」（ラース・ホルム編曲）で幕が開きました。

続いて司会の挨拶と紹介があり、早速 2 番の演奏「ボエヴェおじさんの賛美歌」へと進みます。「この曲はスウェーデンの作曲家ラーシュ・ホルメルのスタンダードナンバーで多くの人に愛されている曲です」と紹介されたけれども初めて聴く曲でした。三重奏で、バグパイプを思わせるイントロから小刻みに刻むベースに乗せて、まず 1 台のアコが入り、くり返ししながら次に 2 台目のア



コも加わるので、次第にフォルテ (f) へと進行する膨らみのある素敵な演奏でした。

3 番の方は、今年 1 月に教室に入り 3 ヶ月で初めてのコンサートとの紹介で「パリの空の下」を演奏、初めてとは思えない伸びやかな音でした。

4 番は、「公園や路上で弾いたときに盛り上がる曲をコンサートで弾くことができて嬉しい」と紹介され「さくら/森山直太朗作曲」（編曲は演奏者本人）を暗譜で立奏。

5 番は、手の痛みのため演奏するか迷ったけど右手首にサポーターを付けて頑張ると決めた「さらば草原」を演奏。89 才になると紹介され暗譜で弾ききりました。120 ベースを抱え姿勢も良く感心します。客席から激励の“ブラボー”の声がかかりました。



6 番は、「大好きな曲でくり返し弾いてきました。コンドルが飛びます！」と紹介されたおなじみの「コンドルは飛んで行く」この方も暗譜でした。7 番は、「アコーディオンでこの曲を聴いてとても魅力を感じた。中山英雄先生の素敵な編曲で力強い愛を歌い上げられたらと思う」と紹介され「愛の讃歌」を演奏。ベローを大きく使っていたので音が良く届いていました。

8 番は、前半最後の演奏で合唱曲「歌よはばたけ」

合唱は、あじさいコーラスの皆さん、伴奏は佐藤吉子さん（合唱団の代表）。「合唱団の仲間もアコーディオン演奏者の方たちに聴いていただけるのは嬉しいと喜んで参加しました」と紹介。また「この歌は、名古屋青年合唱団の女性アコーディオン奏者のことを歌った歌です。昨年 12 月 3 日愛知県で行われた日本のうたごえ全国交流会のコンクール形式による合唱発表会・女性の部で銀賞をいただきました、アコーディオンの入った合唱を聴いてください」と紹介。

♪アコーディオンかついで あなたが来る 春を肩に載せて やってくる・・・これは歌い出しの言葉です。



・・・・・・休憩・・・・・・

後半の最初は全員合奏で 9 番になります。「フォレスト フラワー」この曲はフィンランドの国民に親しまれている民謡で、春、森の中で出会った二人が教会で結婚します・・・そんな曲の紹介でした。わりとゆったりした三拍子です。時折で来るメロディーがどこか「満州の丘に立ちて」に似ているなあと思いながら聴きました。

10 番からはそれぞれが 2 曲目の演奏になります。「星に願いを」この曲は 1940 年のアカデミー賞で“歌曲賞”、“作曲賞”を受賞した名曲ディズニー映画ピノキオの中で歌われている曲で、詩の中の希望あふれるメッセージは誰の心にも届くでしょう、と紹介。演奏者は前半 3 番と同じですがこの曲は暗譜で弾いていました。

11 番は、「ラ・メール」作曲家シャルル・トレネの代表作と紹介。演奏者は、前半 2 番で三重奏された内の一人です。アコーディオンを練習されている人たちは良く耳にする曲ですね。

12 番は、「アイ ラブ ユー」この曲は最も好きな

曲でアコーディオンによく合うと紹介され、前半4番目に演奏された「さくら」同様に暗譜で立奏でした。好きな曲なのでかなり弾き込んでいるでしょう、想いのこもった音が会場いっぱいに広がりました。

13番は、「愛のあいさつ」(江森登 編曲)。この曲を練習していると思うのは、お互いを思いやる温かい気持ち、ゆったりとした曲の流れを大切にしていって穏やかな気持ちで演奏しますと紹介。演奏者は前半7番の「愛の讃歌」の演奏者です。

14番は、「タイスの瞑想曲」(中山英雄 編曲)。昨年、アコーディオンを始めて40周年を迎えた(拍手)40年間支えてくれた家族の好きな曲ですと紹介。オペラ「タイス」で使われている曲で、瞑想とあるようにゆめの中へと誘われていく感じが出ていた演奏でした。

15番は独奏の最後で「我が心のジョージア」。この曲はいまから93年前の昭和5年につくられ、レイ・チャールズが1961年に歌ってミリオンセラーとなり、1979年にアメリカのジョージア州のうたとなりました。懐かしさが表現できたら良いなと紹介されての演奏でした。



16番は、ゲストの独唱「愛の言葉」(シャルル・デュモン作曲)と「ばらを植えよう」(ポーランド古謡)歌(ソプラノ)は山田千賀子さん。

1曲目は1961年に作られたシャンソン。2曲目はポーランド古謡で林光さんの作曲です。

伴奏は森陽介さん(講師)。「愛の言葉」は、♪君が好きだ 君なしでは生きられない 君が好きだ 僕は叫ぶ そして誓う・・・と歌います。2曲目は、♪ばらよ 僕らのばらよ まだまだ世界には 雪の嵐が 騒ぐだろう・・・と力強く歌います。(ゲストへ花束が贈られました)

17番は、講師演奏「東から西へ」「この曲はイタリアの東海岸から西海岸までを旅する情景から作曲された曲です。なかなか行けない場所ですが演奏しながら旅の気分を味わえたらと思っています」と紹介。司会の紹介を聞いたせいか、長距離列車の車窓から眺める海岸線の移り変わり、線路脇を流れていく電柱や畑、遠く空に浮かぶ雲の様子が見えてきます。

『せっかくお客様が来てくださったのだから多くの曲を聴いてもらいたい、少しでも長く一緒に時間を過ごしたい、そういう教室生の想いで1人

2曲の独奏に挑戦しました。2曲演奏することは大変さも2倍だけど、嬉しさ、喜びがその何倍もあると前向きに取り組んで来ました。』これは教室生を代弁した司会の言葉です。

教室のキャップからは『私たちの金曜教室は教室生7名ですが、20代から80代までバラエティーに富んでおります。でも、みんなアコが大好き、アコやめられないっていうベロズラバーズの集まりです。』

『このコンサートに関して嬉しかったことが3つあります。1つは1月に新人が入ったことです。独奏2曲頑張ったので拍手です。』(拍手)

『2つ目は、初めてですが仲間の所属するあじさいコーラスのグループが友情出演してくださいました。』(拍手)『3つ目はいつもですが、今回もスタッフに恵まれました、「何でもやるよ、舞台に集中してね」って本当によくやっていただき私たちは安心して演奏ができました。』そして最後に、会場みなさん、駆けつけてくださった先生方、毎回来てくださるお友達、ご家族、いろんな方に恵まれことへの感謝と、これからもご支援よろしくお願いいたします。と挨拶されました。

18番目はエンディングで全員合奏の「島唄」。

この曲は31年前に作曲者、宮沢和史さんが沖縄のひめゆり平和記念資料館で語ってくれた、もとひめゆり学徒隊の女性にささげたいと作詞作曲された曲です。1945年4月1日アメリカ軍が沖縄に上陸。日本で唯一住民を巻き込んだ地上戦が行われ、島民の4人に1人の命が奪われました。サトウキビ畑で出会った愛する二人がサトウキビ畑の下洞窟の中で自決しなければならなかったという歌詞の部分は、沖縄音階では作れない。二人は本土の犠牲になったのだから。」と作者は語っています。私たちは平和で豊かな沖縄の実現を願います。そんな願いを込めて演奏します。



盛大な拍手に、アンコールは最後に楽しく演奏できたらと「ルパン三世のテーマ」の軽快な演奏です。会場全体にアコーディオンへの想いと愛情あふれる素敵なコンサートでした。(記:乙津)

「彩（いろどり）の音（ね）コンサート」

2023 年 4 月 16 日(日)13 時 30 分から 2 時間ほど

さいたま市プラザイースト 多目的ルーム

主催：ウインドバスカーズ埼玉アコーディオングループ

メンバーのお一人からご案内をいただき、ウインドバスカーズ埼玉アコーディオングループのコンサートへ出かけてきました。「第 63 期 初級教室 修了演奏会」ということで、定期演奏会とは異なり初級クラスを終える方が演奏を披露することが主目的のコンサートで、そのお祝いも感じられました。

今回の修了者はお一人でしたが、その方の独奏曲「魅惑のワルツ」、そして初級担当講師の方とのアンサンブルで「サン・トワ・マミー」が披露され、その後に花束贈呈とインタビューコーナーがありました。「アコーディオンの音色が琴線に触れた」ことをきっかけにご自身でも弾いてみたくなり初級教室へ入会されたそうです。

講師の方のご指導とご本人の才能や努力の賜物だと思いますが、とても落ち着いた演奏で心地よく聴くことができ、きっと今後はグループの中でも活躍が期待されるのではないかと感じました。初心者から中級クラスへとステップアップをするという節目にメンバー全員でお祝いを兼ねたコンサートを開くという試みは、大変素晴らしいことだと感心しました。

初級を修了なさったご本人はもちろん嬉しいことでしょうし、これからは中級クラスで他のメンバーさんたちと一緒にもっともっと頑張ろうという励みにもなったでしょうし、参加者全員にとって更なる向上を目指す良いチャンスとなったのではないのでしょうか。



初級修了生の折田祐児さん

コンサート全体のプログラムをざっとご紹介しますと・・・

第一部 は、1. 中級アンサンブル「恋のバカンス」 2. 初級独奏「魅惑のワルツ」/
初級アンサンブル「サン・トワ・マミー」 3. 花束贈呈・インタビュー 4. 中級独奏「たき火」「ワルティング カッコー」「星めぐりの歌と牧歌」「家路」「弦楽セレナーデⅡワルツ」「二つのギター」 5. 中級デュオ「河は呼んでいる」

第二部 は、1. 中級独奏「バラが咲いた」「懐かしき愛の歌」「ビートルズ・メドレー」「インドの歌」 2. 中級アンサンブル（大宮教室）「野に咲く花のように」 3. 中級独奏「リンゴ追分」「ワルツ・エクレール」「ジグと二つのロンド 組曲『アブデラザール』より」 4. 講師演奏（松永勇次先生）「ニュー・シネマパラダイス・ファンタジー」「ひばり」 5. 全員合奏「ジュピター」



合奏（ジュピター）

どの演奏にも、それぞれの演奏者のたくさんの想いが込められていることを感じましたが、特に最後の全員合奏「ジュピター」は圧巻でした。冒頭からとても立体感を感じる編曲と演奏で、聴き進むにつれ気持ちもどんどんと引き込まれて盛り上がっていく、美しく力強い演奏でした。

プログラム中に書かれていた言葉「メンバーの音楽経験は色々ですが、音楽が日々の生活を豊かに彩ってくれます」が心に響きました。レベルの異なるメンバー同士での全員合奏をまとめ上げていくために様々に工夫をなさっていることと思いますが、アコーディオンの音色が大好きな人が集まって「とにかく一緒に楽しみましょう」という気持ちで長く活動を継続してきていることが、とても素敵だと思います。



折田さんを囲んで記念撮影

心が温かく豊かになるコンサートを多くのアコーディオン仲間たちと一緒に楽しむことができ、ウキウキとした気分で会場を後にしました。演奏者の皆さま、ありがとうございました。

工藤絵里
(写真：主催提供)

第 17 回 五十嵐 美穂 アコーディオンリサイタル

2023 年 5 月 2 日（火）開演：19：00 めぐろパーシモンホール（小ホール）完全予約制

5 月 2 日（火）連休気分の中、この時期に毎年開催される五十嵐美穂さんのアコーディオンリサイタルに足を運んでみました。会場も毎年変えずに「めぐろパーシモンホール」で定着しているようです。東急東横線「都立大学」駅から徒歩 7 分ぐらいです。受付で検温があり、スタッフ、お客さん共にマスク着用でした。ロビーの一角に「ウェルカム フラワーアレンジメント」とでも言うのでしょうか演奏者の友人の作品が飾られお客さんを迎えていました。（舞台写真：演奏者提供／フラワーアレンジメント：制作者許可）



定刻になると、下は柔らかいピンクの地に花柄のパンツ、上着はオレンジの半袖シャツにアコーディオンを抱えて登場。拍手で迎えられ開幕は「ジョリーキャバレロ」でした。



そして自己紹介と、“毎年のリサイタルは私にとって全日本選手権のようなものです”最後まで戦い抜きたいとあいさつ。

2 曲目も開幕演奏同様にフロッシーニの作曲で「スプリングセレナーデ」、ベローシェイクや左手ベースの美しい進行がフロッシーニの曲の特長ですと紹介。この曲に出てくるトレモロをきれいに弾きたいとの解説でした。それは曲の最後に使われていました。繰り返したときはピアノニッシモ（pp）にしたり、バラライカやマンドリンのようなきれいなトレモロでした。

3 曲目は「私のお気に入り」、サウンドオブ

ミュージックの中の曲で五十嵐美穂さんの編曲で演奏。嬉しいことがあってステップを踏んで踊っているような演奏でした。くり返しの強弱やクレッシェンド（ < ）を上手に使っています。

4 曲目は、映画（会議は踊るより）「ただ一度だけ」、アコーディオンを習い始めた頃、池袋のビアレストラン「ライオン」でバンドが演奏したこの曲に、初めて聴く曲だけれど“なんて心弾む楽しい曲なんだろう”とアコーディオン奏者の方にお願ひして 3 回も弾いてもらったと、当時の想い出として紹介されていました。この曲も演奏者の編曲です。

5 曲目はタンゴの曲で「碧空」、どこか哀愁を帯びた旋律は戦争が始まる空気を感じていたのかもしれませんが解説しておられました。日本には 1930 年代後半には入ってきてよく知られています。

続く 6 曲目もタンゴの曲で「ラ・クンパルシータ」（伴典哉・平山尚：編曲）『伴典哉さんは、私の先生、平山尚先生の師匠に当たる方です。平山教室に入会したときにはすでに他界されていたので会うことはなかったけれど、たくさんの曲をアコーディオン用にアレンジされていて、メロディーが引き立つようなベースの使い方が魅力です。』と伴典哉さんの紹介がありました。6 曲終わったところで第 1 部終了。

・・・・・・15 分休憩・・・・・・

第2部は7曲目の曲から始まります。初夏を感じさせる花柄のワンピースドレスに衣装



を替えて登場。演奏曲は「舞踏への勧誘」(ウェーバー作曲)、細かい音が随所に出てくけれど、潰れることもなくきれいにでていて素敵な演奏です。森の中で動物たちが踊っているようです。

8曲目は「時の踊り」、かわいらしい曲だけれど聴いたことがなかったので帰宅後インターネットで検索してみました。歌劇「ジョコンダ」の中で使われている一曲で第3幕のバレエ音楽」と書かれていて、バレエの動画を観ることができました。

9曲目は「パガニーニの主題による変奏曲」(パガニーニ作曲)、主題と個性的な八つの変奏曲から成り立っていると解説。バイオリンの名曲だけれどアコーディオンならではの残響を活かす魅力的な平山奏法をこれからも研鑽を積んでいきたいと話しておられました。重音やトリル、ベローシェイクもあって難しそうな曲を素敵に演奏していました。きれいな曲です。

10曲目は第二部最後の曲になります。「チゴネルワイゼン」(サラサーテ作曲)、この曲もバイオリンの名曲と言われています。『この曲に出会って25年、未だにこの曲は難しいけれど、世界で最も美しい旋律だと思っている。』『この音をこういうふうに出したいとこれからも大事にしていきたい曲です。』と語っていました。演奏時間は10分ぐらいあったと思います。一番長い演奏時間の曲を最後に持ってきたプログラムに冒頭に語っていた“このリサイタルは全日本選手権”の言葉への意気込みを実感しました。客席は大きな拍手で応えていました。

そして、演奏者が子どもの頃から今日までの

人生の中でその時々につながってきた客席の仲間の皆さんへ、また、もしかしたら今日初めましてかもしれないお客さんへ、今日は会場に来てはいないけれど87歳になっても指導してくださっている平山先生、平山先生と同じ年の演奏者のお母様、皆さんの支えに感謝の気持ちを込めてもう1曲お送りします。と「ハンガリー舞曲第6番」(伴典哉編曲)を演奏して幕を下ろしました。

プログラムが全10曲、感謝の1曲も含め演奏はすべて立奏、しかもすべて暗譜でした。それだけでも感心するけれど、進行も、1曲演奏し終わると椅子に腰掛け汗の付いた楽器を拭き、時々額の汗も拭ったりしながら曲の紹介やエピソードを交えて話す内容を覚えることも必要だったでしょう。紹介が終わると立ち上がって、これも一回ごとにじゃばら止めの短いバンドをはずし呼吸を整えている姿を見ていると、年に一度のリサイタルをどれだけ大事にしているかがよくわかります。

全体を通して、フォルテ(f)やメゾフォルテ(mf)からピアノ(p)やピアノッシモ(pp)への切り替え、身体が柔らかくしなって、しかも切り替わるタイミングではスナップのように力が入ると思うので、筆者はなかなか難しいテクニックだと思って聴いていました。隣で聴いていた友人は、「素直な音になって円熟期に入ったのかな」って話していました。

終了後はロビーでお客さん一人一人から声を掛けられておられる演奏者の笑顔をみながら帰途につきました。

(記：乙津)

■2022年6月30日、2枚目になるCD「アコーディオン序曲名曲集」2CDを発売されました。『オーケストラとは違う表現をお楽しみください。』とのコメントです。